



問題に気付き 自ら行動する子ども

校長 山口 浩二

本校では、登校した子どもから朝活動に取り組みます。朝活動とは、自分のため、みんなのために活動する主体的な時間のことです。あるクラスの活動の様子を紹介します。

Aさんは、教室のゴミ箱を掃除してくれていました。しかし、ゴミ袋に入らなかったゴミが周りに散らかっている状態が続いていることが気になっていたようです。様子を観察していたところ、ゴミ入れ口からゴミ箱までの距離が開きすぎているからなのではないかと考えました。そこで、ゴミ箱の下にダンボールでつくった台を敷いて高さを上げ、ゴミ入れ口に近付けるようにしました。今では、周りに散らかるゴミの量がかなり減ってきたようです。

Bさんは4年生のみんなで世話をしている花壇が気になっているようです。たくさんの花苗の中に、数本、傾いて倒れそうな苗があるので、どうしたら無事に生長していけるだろう？と心配するようになり、家から割り箸を持ってきたそうです。それを支柱代わりに、ひもで結わえて花苗を固定しました。そのおかげか、花壇の花苗たちは、強風に耐え、無事に生長し続けています。

Cさんは、校内の挨拶が少ないことが気になっていました。挨拶を増やそうと廊下で挨拶をしながら歩き回ってみたものの、少し変な目で見られたこともあったそうです。そこで、仲間にも相談したところ、周りの人から見ても分かるように「たすき」を作って肩から下げるようにしたそうです。現在、挨拶を返してくれる人もいれば、返してくれない人もいるそうで、思うようにならないもどかしさを味わいながらも、あきらめずに挨拶運動を進めています。

この3人のように、学校には、身の周りの問題に気付き主体的に行動できる子どもが増えてきています。しかし、中には「自分には関係ないから」「先生が解決してくれるだろう」などと他人任せにしたり、依存心や羞恥心が勝ったりして、なかなか行動に移せない子どももいるようです。前述したクラスでは「〇〇が汚れているから掃除してみようかな？」などと活動に自信がもてず迷っている子どもの相談に対して担任が「いいと思うよ やってみれば！」と笑顔で背中を押すよう心がけているそうです。教室には、活動のヒントになるようにと、様々な場所で朝活動に取り組んでいる仲間の姿が紹介されていました。

変化の絶えない次代を生きる子どもたちには、ぜひ折々に出合うであろう問題に正対する誠実さと、他と協働しながら問題解決に取り組むたくましさを身に付けてほしいと願っています。

子どもが問題に気付いたとき、そして正しいことを行おうとしているとき、躊躇なくそのことを表明し実行するには、安心して取り組める環境（心理的安全性）が必要です。さらに、何かしら行動した子どもたちが、自分自身のことをまんざらでもないと思えること（自己肯定感）も大事だと思います。私たち大人の果たす役割はそのような視点にあると思うのです。今後も、学校では、様々な教育活動を通して、子どもたちの主体性と協働性の育成に努めてまいります。